

「リニアで南アルプスを壊さないで」 8月5〜6日大鹿村現地集會に参加して

おおしかむら

竹本 幸造／リニア問題検討委員会事務局長

静岡安倍っ子山の会

リニア新幹線工事による南アルプスを危惧する「リニア新幹線を考える登山者の会」が主催し、地元大鹿村に長野県大鹿村が始まった。この村の住人である宗像充さん前島久美さんたちが呼びかけて集會が持たれ、55人が参加した。



大鹿村一番の交差点（ディアーター前）に立て看板を設置し、リニア工事反対の気運を高めた

れを危惧する「リニア新幹線を考える登山者の会」が主催し、地元大鹿村の住人である宗像充さん前島久美さんたちが呼びかけて集會が持たれ、55人が参加した。開口一番、宗像さんが、地元民また登山者として南アルプスが壊されるのを黙って見過ごして良いのか、立ち止まって自然環境を考えてみる機会にしたいと挨拶した。

参・加・者・感・想

■リニア問題は、企業の利権、村民の利害関係、都市部から離れ高齢化による過疎地が故の耕作放棄地等様々な思惑が交錯するが、私はぶれずにリニア反対という意見を持ちたいと思う。

（小林敏之／静岡勤労者山岳会）

■大鹿村に行かなかつたら実態を知らなかったし、自分とは関わりのないこととして過ごしてしまうところだった。大鹿村の実態広めると共に一般の人にも悪影響を伝えリニア建設反対の声をあげ阻止したい。

（志村明美／静岡勤労者山岳会）

■南アルプスの麓に住んでいて登山をしているからこそ本気になれることだと思う。全国組織を生かし、全国津々浦々までこの理不尽な工事を知らせるべきだと思う。

（木原政子／焼津山の会）

した中川豊氏が、明治期から大正、昭和にかけての赤石岳の変遷を語り、大鹿村や南アルプスの価値を述べた。2人目の講演者は、愛知県の高校で教鞭をとる傍ら、厳冬期には毎年大鹿村を訪れ、数ある氷瀑をアイスクライミングし、大鹿村を桃源郷と表する成瀬陽一氏がその魅力を語ると同時に、こんな素晴らしい村の沢が涸れ、自然環境がリニアトンネルで壊されダンブが走ることになるとのは本当に悔しいと語った。講演後には参加者から報告と意見交換が行われ、続く第2部で40人程が参加して村内に立て看板が設置された。翌6日は、小渋川の支流でありト

ンネル坑口である除山地区、釜沢地区にあたり、工事により湯水期には80%が減るとされる小河内沢の遡行調査が実施された。

帰り林道で「調査中」の腕章を着けた男の人が望遠鏡の脇で立っていた。何の調査ですか？ と聞くと答えた。おそらくJR職員でオオタカの調査だと宗像さんは言うが、「村に勝手に入ってきて何をしているのかも答えられない」というのは、不審者と言われても仕方ない対応じゃあないですか」と強く抗議した。これがJR東海の言う「丁寧な説明」の本質を露呈した姿だと